

【 第4回 U-22東アジア選手権 】

2016年7月3日～7月10日 中国・蘇州

試 合 結 果 報 告 7 月 5 日 (火)

J P N	V S	H K G (香港)
21	前半	5
15	後半	8
0	第1延長	0
0	第2延長	0
36	合計	13

個人得点

名前	前半	後半	第1延長	第2延長	合計
高光 凌	0	0			0
高野 颯太	1	1			2
浅川 律樹	0	3			3
部井久 アダム勇樹	6	0			6
服部 将成	1	1			2
徳田 廉之助	4	0			4
藤川 翔大	1	0			1
村木 幸輝	2	2			4
山田 翔騎	1	1			2
藤田 龍雅	3	0			3
堀田 陽大	0	0			0
矢野 世人	0	3			3
助安 大成	0	2			2
若狭 圭悟	2	2			4
萩原 奨太郎	0	0			0
					0
					0
					0
合計	21	15	0	0	36

戦評

U22東アジア選手権大会の2戦目は香港と対戦。前日の韓国戦から一夜明け、気持ちを切り替えて試合に臨んだユース日本代表チームは、チーム発足当初からテーマに掲げたハードなコンタクトDFを徹底することを確認し、試合に臨んだ。試合開始早々から、NO.3徳田、NO.5部井久、NO.11藤田らの活躍で6連取し、6対0とリード。高野、矢野を中心にテーマであるハードなコンタクトDFを繰り返し、15分過ぎからこの日トップスコアラーのNO.5部井久の活躍で9連取し、24分18対2とする。前半を21対5で折り返した日本は、後半も徹底したコンタクトDFを繰り返す。NO.1高光の好セーブからの速攻も飛び出しさらに8連取。その後も、NO.14助安を中心に機動力を使った牽制DFからの速攻を繰り返し、36対13で勝利。次戦の台湾戦に向けて弾みのつく試合となった。

報告記入者：

所 努